

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 粟島浦村立粟島浦小中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (小中併設校)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒958-0061
新潟県岩船郡粟島浦村162

E-mail seabream@iwafune.ne.jp

Website http://iwafune.ne.jp/~seabream/

児童生徒数 男子 13名 女子 14名 合計 27名
児童・生徒の年齢 7歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

粟島浦小中学校は、離島にあり、中学校を卒業し高校に進学する際には、家を離れ、島外で生活することになる。15の春には自立を求められるため、9年間を見通した社会性の育成が急務である。そこで、当校では「粟島に愛着や誇りをもち、未来を切り拓く力を育てること」を目標とした。

総合的な学習の時間や特別活動の時間を中心に、地場産業の体験学習、他地域の学校との交流学习、地域を知り地域を守る学習を行っている。

① 地場産業の体験学習

ア わかめ採り (小中学校合同)

伝統ある地場産業のわかめ養殖を、わかめ巻き(11月)から収穫(4月)、販売まで体験している。作業は全児童生徒と保護者や地域ボランティアで行っている。50年以上の歴史がある「わかめ採り」は、親や祖父母世代も体験してきたものであり、ボランティアで参加してくださる地域の方みんなが、先生である。この活動でできた、乾燥わかめ、めかぶ、茎わかめは、村民や観光客に販売し、収益を児童生徒会費として学校の教育活動に活用している。

イ 枝豆の栽培体験学習（小中学校合同）

学校の近くに畑を借りて、栗島で多く栽培されている枝豆「ひとり娘」の栽培をしている。今年度は、小学生も種まきに参加した。中学生が中心となり、草取りや収穫の活動を行った。平成27年に中学生が総合的な学習の時間に考えた「ひとり娘」を使った枝豆アイスが委託製造され島内外で販売されている。栽培した枝豆はその原材料として利用されている。

ウ 大謀網体験（中学校）

6月5日に中学生全員で栗島の主要産業である漁業の大謀網体験を行った。漁師の方々のご厚意で漁の船に乗せていただき、栗島の地場産業である大謀網漁を見学した。また、漁協において漁師の方々や手伝いの島民に教えてもらいながら獲れた魚を仕分けし、出荷用に箱詰めする作業を体験した。

これらの地場産業を体験する活動を通して、ボランティアや手伝いの地域の人々と関わりながら、地域の産業について深く学ぶことができた。また、子供たちが体験できる範囲で地場産業全体を体験することで、苦労や喜びを味わうことができた。キャリア教育の視点からもよい活動ができていると考える。

② 他地域の学校との交流学习

ア 村上小学校との交流（小学校）

日頃体験できない大人数の中での授業を体験させ視野を広げることを目的に、村上小学校と年に2回の交流を行った。普段は体験できない大人数の中で授業を受け、給食を共にし、昼休みにいっしょに遊んでいる。ここ数年は継続して交流をもっているため、栗島浦小の子供たちの顔と名前を覚えてくれて、抵抗なく一緒に遊ぶことができている。大勢の同学年の子供たちの前で学習したことを発表したり、ドッジボールやバスケットボールを思いっきり楽しんだりする様子が見られた。

イ 島内に高等学校のない栗島では、中学卒業とともに親元を離れて高校生活がスタートする。大人数の授業に慣れるために他校との授業交流は大切である。今年度は、対岸にある村上市の神納中学校との交流を行った。1日目と2日目の午前中、授業や部活動に参加し互いの交流を図った。島の生徒が卓球の地区大会で勝ち進んだ際には、神納中学校の生徒から多くの声援があった。交流の成果と考えられる。

③ 地域を知り、地域を守る学習

ア 馬と仲良し（小学1・2年生活科）

学校に近い栗島牧場で飼育している馬の世話活動を行い、ブラッシングや餌・水やり、馬房の清掃などを体験した。また乗馬体験を行い、触れ合いを楽しむことができた。

イ お年寄りとの暮らし（小学3～6年総合的な学習の時間）

お年寄りと関わったりや福祉体験セットでお年寄りの不自由さを体験したりして知りたいことがたくさん出てきた。地域のお年寄りが集まって行っているイキイキ体操会へ出かけ、インタビューを行った。また、自分たちにできることとして、イキイキ体操会でリコーダー演奏や歌を

披露したり、お年寄りと一緒に活動を楽しんだりした。これらの学習を通して、「遊んでいるだけだと思っていたお年寄りが、自分でできる仕事を一生懸命にしている。」「自分に厳しく生活していることに驚いた。」などに気付くことができた。

ウ 伝統文化を考えよう（小学3・4年総合的な学習の時間）

粟島の伝統文化について、地域の方から教えていただいた。その中で、現在も続いている神楽や途絶えてしまった鳥追い・夜回りについて興味をもって、詳しく調べる活動を行った。それぞれの伝統文化をよく知る方を訪ねて教えていただいた。神楽に込められた意味や鳥追い歌の意味を聞くことができた。学習発表会に向けてまとめたり、振り返ったりすることを通して、「伝統文化は島民を元気にする素晴らしい文化であり、それがなくなるのは悲しい」や「自分たちも伝統文化を守り、継承していきたい」という思いをもつことができた。

エ 歴史や伝統文化を考えよう（小学5年総合的な学習の時間）

学習の導入で、小正月の飾りとして家庭で作られる「だんごの木」を見学に行った。その見学先のおばあさんから粟島についてのさまざまな話をお聞きした。そこで子供たちが興味をもった「行事と方言」「お宝」「戦争」をテーマにして、一人一人が調べ学習を行った。児童の一人は、社会科の学習で行った歴史の学習だけでは、自分とかけ離れた存在だった戦争について詳しく調べていくうちに、身近にあった戦争の爪痕に気が付き、平和に対する思いを強くもつことができるようになった。

オ 今の粟島と昔の粟島の生活を比較して（中学1年総合的な学習の時間）

粟島の今と昔の生活を比較し、生活の変化を調べた。調査をしていく中、船の運航が生活の変化に影響を与えていたり、人口の変化から今後の粟島の課題について考えたりすることができた。粟島の生活の変化から、郷土の文化や産業に対する理解が深まった。

カ 粟島活性化プロジェクト（中学2年総合的な学習の時間）

「粟島」について学習し、粟島にたくさんの魅力があることに気付いた。前半は、粟島の課題である高齢化から、高齢者との交流を通して郷土を盛り上げようと企画、提案、実践を行った。後半は、粟島の海と特産品のじゃがいもをコラボした商品考えた。結果、海水から採れる塩とじゃがいもから作ったポテトチップスを合わせた、粟塩チップスを作り試食した。これらの活動を通して、郷土のためにできることを考え、実践する力を身に付けた。

キ 郷土粟島のために（中学3年総合的な学習の時間）

郷土粟島のために「何かできることはないか」と活動した。3年生それぞれが島の将来を真剣に考え、島の新しい「お土産」を提案したいと思い、島に関係のあるお菓子のアイデアを提供した。企業との交渉にも取り組んだ。

ク 島びらきへの参加（小中学校合同）

毎年5月2日、3日に粟島汽船、村役場、民宿・旅館、地域、各企業、学校が一体となって島びらきを行う。小中学校は、小学校の総合学習の中から生まれた「島っ子ソーラン」を踊り島びらきを盛り上げる。

新年度すぐに、小中学生全員で練習が始まる。はじめて踊る留学生や新入生を、島の子供たちや継続留学の子供たちが練習をリードしている。

年度当初の時期にあることで、子供たちの団結力を高める良い機会となっている。大観衆の中、大きな拍手をいただき、子供たちは満足した表情で達成感を味わっていた。

ケ クリーンアップ作戦（小中学校合同）

6月18日（日）に、粟島クリーンアップ作戦に参加した。村の主催で、島外からもボランティアを募り、一緒に活動した。当日、小学生は、ボランティアが到着する港で、歓迎の看板を掲げ、中学生はクリーンアップ作戦で使用するゴミ袋や軍手の配布を行った。また、児童生徒も海岸の清掃活動に参加し、短時間でたくさんのゴミを拾った。改めて漂着ゴミの多さに驚いていた。さらに小中学校単独で、「海岸清掃」（学校の水泳場）や「町はき」（住んでいる地域）を行った。これら活動を通して、環境の美化、きれいな粟島の環境を守る意識を高めることができた。

④ その他

ア 運動会（小中学校合同）

9月22日（金）に運動会を実施した。児童生徒会総務部が中心となって考えたスローガン、小学生が中心となって製作したパネル、中学生が中心となって行った応援、全校で行う競技など、毎日力を合わせて取り組んで運動会を迎えた。運動会后、赤白に分かれて応援リーダーがこれまでの取組の総括を行った。運動会の結果にこだわることなく、運動会当日までのそれぞれの頑張りをしっかりと認め、たたえることができた。周りで見守っていた保護者、職員にとっても感動的な時間となった。

イ 文化祭の演劇（小中学校合同）

11月3日（土）に開催した。当日は村の文化祭とも共催であり、村の一大イベントとして多くの村民が学校を訪れた。当日は、作品の展示のみならず、児童生徒の音楽発表、演劇、PTAによる合唱、また粟島合唱団（地域）の発表など多様な催し物が行われた。特に演劇の発表は、9月から2か月近い時間をかけ、小道具づくりや演劇の練習に励んだ。劇には粟島の方言を取り入れるなど、子供たちがシナリオを工夫し、村民が楽しめるものとなった。

ウ 自然体験活動・民泊体験（小学校）

胎内市のアウレツ館に宿泊し粟島とは異なる山間地での自然体験活動を行った。焚火でパンを焼いたり、植物や生き物の観察をしたりした。さらに数名ずつ農家に民泊して農業体験を行ったり、夕食のおかずを一緒に作ったりした。民泊先の農家の方から大変親切にいただき、子供たちは毎年民泊を楽しみにしている。

エ 粟島のPR活動（中学校）

社会見学で生徒が考えた枝豆アイスを製造している工場の見学を行った。工場の方に質問をしたり、話を聞いたりした。商品開発の苦勞を聞いたり、新商品の試食をさせてもらったり、企業の努力を感じることができた。また、弥彦村の物産館で粟島のPR活動を行い、多くの人に興味をもってもらうことができた。活動の様子は、地元の新聞にも取り上げられた。



①ア わかめの切り離しの様子



①イ 枝豆収穫の様子



②ロ 魚の箱詰めをする中学生



②ア 大勢の前で発表する小学3年生



②イ 卓球の部活動体験の様子



③ア 馬のブラッシングをする様子



③ウ 発表会での手踊りの様子



③エ 戦争に関する発表の様子



③オカキ 中学生の発表会の様子



③ク 島っ子ソーラン演舞



③ケ クリーンアップ作戦出迎え



④イ 文化祭での演劇の一場面



④ウ 民泊先の皆さんとお別れ



④エ 法被を着て栗島をPR

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (社会性育成)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールの理念にかかわる活動が教科横断的に行われるように、教育計画を編成している。また、アクティブ・ラーニングの視点での授業改善を校内研究で取り組んできた。主体的・対話的に学ぶ姿が教育活動の全体に現れるように、努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

特別に新しい活動を設定するのではなく、学校の教育活動全体をユネスコスクールの理念、ESD教育の視点で捉え直して活動を進めることで、職員に過度な負担がかからないようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価としては学期毎の児童生徒アンケート、職員評価。外部評価としては学校運営連絡協議会を年3回開催し、教育活動について意見をいただいている。子供たちが取り組んでいる活動については高評価を得ている。しかし、ユネスコスクールの理念を評価に生かせていない。今後、学校評価を改善していく。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

学校のパソコンやシステムの問題で、学校ホームページが更新できていないため、活動の紹介が十分にできていない。「ブログ栗島日記」でのみ、活動が紹介できている。新潟県教育委員会のホームページ上で、栗島裏小中学校のユネスコスクールの取り組みを紹介している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

離島で定期船の便数も少ないため他団体との連携が取りにくい状況である。インターネット等を有効活用できればよいと考えているが、現在の学校のパソコンやネット環境では活用が難しい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

離島のため他のユネスコスクールとの交流が難しい状況である。県内のユネスコスクールとの情報交換の機会が設定できるとよいと考える。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

特になし

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ①地場産業の体験学習
わかめ採り、枝豆の栽培体験学習、大謀網体験
- ②他地域の学校との交流学习
小学校（村上小学校） 中学校（神納中学校）
- ③地域を知り、地域を守る学習
生活科（馬と仲良し）、小学校総合（海岸漂着ごみ調べ、粟島の産業について）、中学校総合（見る・知る活動、体験する活動、発展させる活動）、島びらきへの参加、クリーンアップ作戦
- ④その他
運動会、文化祭、自然体験・民泊、粟島PR活動